日刊
磐城日日

發行所
株式會社 磐城日日新聞社
福島縣小名浜町諸廻51
電話 219番
振替口座仙台31355番
編集人 高瀬霞
印刷發行人 長瀬芳郎

時局と縣政報告（三）

國民民主黨福島縣支部幹事長
縣會議員 大井川正巳

今や國民は何人を問わず金つまりと重税の爲經濟的に行詰を來たし破産をするもの、甚だしきに至つては一家自殺をするものが續出している現況に鑑み、國民を無視する惡法として減税の修正案を提案したのに不拘、衆議院は多数を以つて與党のみ可決しましたが參議院に於ては見事流産となりましたため臨時第八國會に於ては野黨第一黨の立場より社會黨と協力して修正案を提出して三黨協定のもとに漸く問題の地方法が可決しました

本縣も國會の決定に基き去る八月縣會に税制改革の條例を審議の上可決、九月一日より實施することになり二十五種の税目中、今度の改正で縣税となるものは、入場税、遊興飲食税、自動車税、鑛區税、漁業權税、狩獵者税、それに法定外として家畜税果樹税の二税目を設定致し、他は市町村税となりました、從つて税率は百分の十八を課税されるので、固定資産税、町民税に至つては約二倍から三倍の負担になると思います地方税の成立が遲れたので國、縣、市町村税が一時に附課される事になりましたが皆さんの負担は容易でないと思われますので、納税準備貯金や、納税組合加入などを御すすめ致します

災害復舊と失業対策

一、災害復旧と失業對策は緊急の施策ですから如何なる犠牲を拂つても之が解決を痛感するのでありますが現在の財政面から容易でなく幾多の方法を講じて縣當局初め政府に善處を要望致して居る次第であります

本年八月三、四日の水害は特に濱通り中部に被害甚大で、約十億圓の損害を受けたのであります、私は八月縣會前上村平土木監督所長の案内で石城地方の災害状況を視察した結果約一億圓に上る被害を確認し八月縣會に詳細な報告をすると共に大竹知事並に井関土木部長に治山治水の根本的對策と之れが復旧に萬全を期するよう當局の所信を質しました

即ち政府は八月十日までに災害復舊費として予算五十億圓を計上し増田建設相より其の促進方を閣議に要望しましたが全國の被害に徴して政府の予算では各縣共根本的の措置は望まれないので本縣の割當補助の見透しと今後の増額運動に對する當局の底意を質し、特種地帯である常磐地區石城郡下の失業状況を取り上げ失業者の救濟を中心として復旧費の促進を要求しましたところ、不取敢八月縣會に於ては災害復舊費として二億圓也を可決致したのであります

本年四月より六月まで本縣の水害は約拾參億の見込で合計廿三億の巨額に達したのであります、更に廿二年より毎年波状的台風に見舞われ、カザリン、アイオン、キテイ、其の他で合計約百二三十億の損害になると思われ過年度土木關係の未完成の約二十億を合計して四十三億圓になるので洪瀾の修築、道路、河川の決潰、橋梁の流失農耕地の冠水流失、山林等の被害に對し、防災工事の徹底と治山治水の對策は緊急を要します

がこれは戰前よりの濫伐等が災害の根本原因と思われますので特に農山村の植林事業の奬勵と道路、河川愛護に一段の協力を望んで止まない次第であります

女子事務員募集
高女卒以上、二十才より二十三才位までの方
明朗で近代的な方を望む
◎希望者は履歴書持參來社されたし
磐城日日新聞社

靖國塔に淨財集まる
會長外役員の活動に感激

（既報）小名浜遺族会及び靖國講共催による靖國塔建立は去る八月より請負者の手により富ケ浦の公園に着工中であるが予算三十万圓のうち町費五万円の寄附を差引き二十五万円の目標達成のため、遺族會長斎藤晃氏、全副会長鈴木治作氏、飯塚藤右衛門氏、靖國講長鈴木貴義氏（京屋）外二十余名の役員が寢食を忘れて東奔西走しその活動振りは町民の感激の的となり小名浜佛教界より千円、土木請負睦會より一万圓の寄附があつたが各區からも熱烈なる賛同を受けぞくぞく淨財が寄せられている

なお申込事務所は中島鈴木貴義氏（京屋）方である

區長及組長會で經過報告

來る二十七日午後一時より第一小学校講堂に於いて區長及び組長会を開催、港灣問題及びピニロン工場誘致に對する經過報告をなす

中毒防止に乘り出す

最近魚介類の食中毒による事故が頻發して居るがいづれも調理取扱上の不注意に起因する事が多いので、之が防止策として平保健所小名浜分室では左記の通り措置する事になつた

一 仕出しの屆出（十一月末まで）多人數（一〇名以上）の仕出を行うものは事前に次の事項を口頭又は電話にて分室に屆出ること

イ 注文先、
ロ 注文数量
ハ 製造日時及給食予定日時
ニ 使用材料及献立

二 仕出品（折詰）には製造場所名及日時を表示すること

三 材料品として、たこ、いか、あわびの類は出來るだけ使用しない事、（たこは九月三十日まで使用禁止）

四 右屆出の際食品衛生監視員は調理場を臨検指導する

町議列傳　たかせ・かすみ

小名濱町會議員
教育委員
馬上喜一氏
体験を語る實際家

馬上喜一氏

私のような、學問のないものにはむづかしい問題を語る資格がないと、謙遜された馬上さんだが、あにはからんや、意見は山ほどもつているばかりか、チョイチョイ、痛烈な激論も放つ、實は過日、祕藏の弟子ともいうべき二名の記者を馬上さんの自宅に訪問させたところが、冒頭に掲げたように、ホール・イズナツシングとばかり、ていよく断わられたという報告を聞いて、怒髮天を衝く程でもないがいささか機嫌を損じ不甲斐なきものどもとばかり、筆者が陣頭指揮に乘り出したところこの日の馬上さんの心境は天氣晴朗にして波おだやかといわぬばかり絶好のコンデーションだつた

馬上さんがうぶ湯をつかつて以來、四百四病の病魔も、あいそをつかすぐらいに逞しく生長して、さらに愛の結晶も出來、親子二代の生ぶ湯を使つたという現在の邸宅は馬上家にとつては正に國寶に値いする歴史的な建築物ともいつてよい、底曳網の船一隻を持つて漁撈する傍ら鮮魚を取扱つているが、船主とは名ばかり、船頭さんに一切を委しているので恥かしい話だが船のことは、かいもく御存知ないという、だいたい今まで小名浜の町民は漁業に依存して一喜一憂するというような傾向があつたが、このような態度は百八十度轉向しなければならない

抑々、町が不況になつた原因の一つは、漁業中心に跛行的な景氣を謳歌して立体的な繁榮策をおろそかにしていたからである、然しながら既に小名浜の漁業は伸び切つている、いいかえれば、先走つてそのバツクになる生産施設が並行してないという重大欠陥を把握しなければならないそれから罐詰工業の設置の完成、漁業家に對する融資の増額、漁撈及び船舶に關する高等技術者の確保など漁業及び水産業者にとつてよろず相談所長のように、微に入り細に入り抱負を語つて頂いたが、これこそ生きた學問であり体験談であり馬上さんが、自分には抱負を語る資格がないといつたのはどうやら虚偽の申立らしい、不漁の最大原因については科學的なことはわからぬが濫獲も原因の一つではないかと考えている、多少の犠牲者は出るかも知れないが、暫らく禁漁することも、一案ではないかと思うと荒療治も、いとわぬ決心を示されたが、宮相撲の大關や横綱格というべき巨体と、べんべんたる太鼓腹からはみ出す烈々たる闘志は波瀾萬疊おそるるに足らずという不退轉の決意を示して、神よ我に苦難を與えよ、命ある限り力試さんといつた山中鹿之助の面影をほうふつさせるに（チトほめすぎるか）十分だ

底曳網一隻でバランスのとれる水揚高を尋ねたところ一ケ月七十五万圓、年間少くとも七百五十萬圓を理想とするが、最近はこの半額もないそうだ、それにも拘らず、税の査定は水揚の好景氣なところを標準にするので、やりきれないと、税務署にも、いささか不平有之候といつた風情、船主のふところ工合は淋しく、縞の財布に五十両もむづかしい時があるが、難船や破船は、いつ、どこで、惹起するかわからぬ、地元なら、いざ知らず、他國で船の手入をする時は現金主義だから、一たん漁に出たら船主は、薄氷を履むような思いをすることも屡々ある虎穴に入らずんば虎兒を得ずというが、船主商賣も樂ではない中途半端な融資を頼つて、次第に深味に入つているのがわれわれのような微力な船主だ、いつそのこと、いやな商賣サラリとやめようかと思うことがあると述懐されたが、七轉八起の意氣に燃える馬上さんが簡單に手を上げるわけもなく、相當の固定資産（税務係には内緒）と永年の信用をもつた馬上さんを金融機関が見捨てる筈もなかろう

昔はただ、まんぜんとして酒を飲んでいたが近頃はさつぱり召し上らぬという昭和二十年の補欠と全二十二年の改選に当選、議席番号ナンバーワンの馬上さんが斗酒なお辭せざる酒呑童子のようにメートルを上げて浜の不景氣をフキ飛ばすような談論風発に接する日を樂しみにしよう

なお後日譚をつけ加えると今年はサンマが非常に好況だから大いに張り切つている姿に近頃接したこれだから水商賣はやめられぬ筈だ

佛教講座
彼岸會③
鳩の巣 如鳩

二、針供養の場

針供養は此の頃では都合のよい時に、行われるようであるが、昔は彼岸の仲日に行われて居た。やはり、古い圖繪を見ると、此の日になつて居る。

それには、いろいろの理由もあつたろうが、何よりも先きに、毎日使用して來た針で、なんのけがも無かつたと云う感謝から、來し方を眺めて、仕事の爲めに犠牲になつた、針の群れを供養をすると云うことになつたのであろう。

それにまた氣候も良く晝夜も同じく、せめて一年に二度の、事故、此の機会に心を佛に向け日頃の懈怠と悪習を反省し、友達同志の親睦のため、山野へのピクニツクなどにも都合がよかつたであろう。

彼岸會や、供養豆腐の針坊主

美しく着飾つた娘達はていねいに仕舞つて置いた、使えなくなつた針を、豆腐の針坊主に刺し込む。そして、人の履まないようなところを撰んで、そこえ豆腐もろ共に針を埋めて供養するのが例になつて居る。

娘達は針を埋めながら皆な口々に、「ころころしやや、ころころしやや」と昔は唱えたものだそうだ。

これは金剛般若波羅密經の補闕圓滿眞言の「おんころころしややばつけいそはか」の略唱である。して見るとこの針供養は、よ程昔から行われて來たものと思われる。

三、日月星晨供養の場

佛恩の深きを感じ、筆や針にまで供養することを怠らなかつた、先祖のことを思うと、今更ながら、我等は反省して新たなる事を學ばなければならない。

我等は古人よりも、より多く天地自然の現象を知り、また、より多くの科學智識とをもつて、これを研究探索して居りながら、なぜにこれらの研究の對照になるものに對して、供養の心が湧いて來ないものかと不思議に思われてならない。兎に角一本の針、一本の筆にまで供養して來た先輩が居る。

今我等新時代に於ても針や、筆に限らず、供養すべき幾多の品々が存在して居ることを忘れてはならない。

故に我等は日月星晨に供養し、諸文明の利器をも供養し、諸原理をも、諸機械をも、物理科学と稱うるもの、醫學、藥学に至るまで、一切我等に付與せられたる凡てのものの供養である。

此の供養を忘れ、彼岸此岸の分別なき時は、凡て與えられし文化の利器と雖も、實に危險極まり無き兇器となつて、尊とい生命の世界をも亡ぼし盡してしまうであろう。

「劍をば鞘に收めよ凡て皆劍持つ身は劍に亡ぶ」（キリスト）

針が有るからとて怪我をするものでもなく、筆が有るからとて落書をするものでもあるまい。怪我も落書もみなこれ佛心の無き所より生ずる不祥事である。

一切有爲の法は、夢幻泡影の如し、露の如く亦電の如し。應に如是の観を作すべし（金剛經）

―續く―

チリ捨場と公民館を設置
湯本町厚生委員會で討議

湯本町当局では去る九月廿一日午後一時より役場内會議室に於いて厚生委員會を開催高木委員長、内山助役外全委員出席のもとに、塵芥焼捨場、公民館の造作内容等について協議した、確聞するところによると湯本町は塵芥焼捨場の完全なる施設と公民館の設置は、長年來の懸案であつたが未だ實現の運びに至らず町當局並に関係者を悩して居たが、いよいよ具体的な段取となりすでに公民館は基礎工事が着々進んでいるが内容を如何なる様式にするか確定して居らず又塵芥焼捨場はどのような施設するかも決定して居らず此れが爲今度こそ完全なるものを造るため來たる二十五日頃千葉、神奈川、静岡、の三縣下の内各年ケ所位視察することになつた、たとえ視察に金が掛かゝつても保健及び文化向上のため公民館、塵焼却場を施設して欲しいとの町民の聲もある一方また視察にかこつけて大名旅行して貰つては困るという町民の声もある

機械体操研究會（湯本礦）

去る八月十五日、常磐炭礦機械体操研究會を結成し會長に佐藤一氏副会長に細井利夫氏を選任して着々内容充實に努力して來たが、近く協議會を開催すると共に秋季大運動會の準備をしている右に関し佐藤會長は次の様に語つた

私共は毎日坑内作業にて健康を害することは今更云うまでもなく、身心共に鍛錬して新生日本再建の基幹になると共に勞働組合運動も自主的、良心的に進みたいと考えて居る

共同募金にトップ切る
自性院の名僧、竹村智連氏

（既報）共同募金の運動は、國民助け合いの現想實現に向つて毎年目ざましい成績を上げ、あたたかい心と心を結ぶ赤い羽根は平和と博愛のシンボルとして、全國民に愛好され、明るい社會建設に重要なる役割を果している、昭和二十五年度に於ける、福島縣の總目標額は一千五百万圓、石城郡の目標額は百七十九万四千圓、小名浜町の目標額は二十一萬八千四百圓、但しお年玉付年賀葉書三万五千二百枚の賣捌代の内利益配分金壹百四圓六拾九錢を差引き十九萬八千八百圓の目標額達成のため團体と提携して活發な運動を開始しているが、小名濱で有名な自性院の住職、竹村智連氏はイの一番にトップを切り一万四百六十九円を寄附して、関係者を感激させた

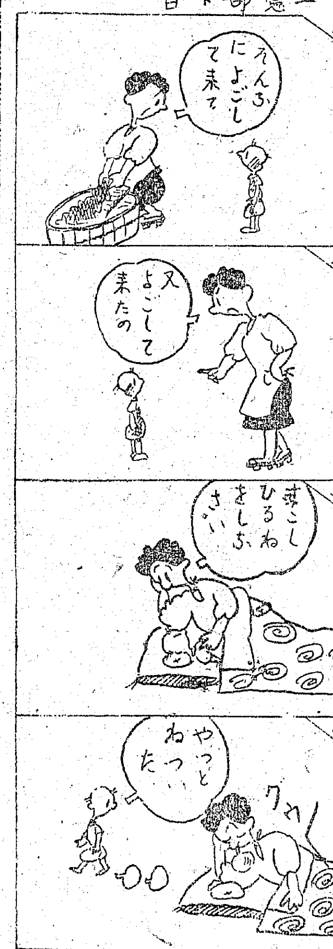
盗品の陰匿暴露

小名浜町署新谷、管野佐藤の三刑事は、同町松ノ中二七、紙芝居業金山鎭八（三二）及同町寺廻四三、塗業高山徳三郎（三五）の兩名が窃盗品の船舶用砲金シャフト（一万円相當）を情を知り乍ら寄藏して居る事を探知、二十二日午前二時、自宅にて逮捕した、犯人及び被害者は目下取調中

湯本支局通信

我が湯本町は温泉町だと云うだけで少しも觀光施設がなく、見るべきものもなく空は煤煙で曇り公園らしきものも何一つなく全く炭礦があると云うだけである、おまけに道路が惡くて雨が降るとウインドや物品に泥がはね上るバラスが飛んでガラスが壊れることも茶飯事で道路の惡いのはまさに天下随一だ、幸に今回堀坂の割出より上町、表町駅前を通り抜けて天王崎に延び小名浜街道と磐崎、泉方面の別れ道まで二四七〇米を予算一、三〇〇萬圓で第一期工事として十月より着工の予定である

連載まんが　ドラさん　日下部寛一



投書には必ず住所氏名を明記すること但し紙上匿名は差支ありません紙面及び内容の都合で取捨することがありますから予め御諒承を願います。他人を中傷したり不快を與える記事は採用せず建設的な意見を歡迎します。

第二青年會の秋季總會

小名浜町第二青年會では九月二十三日午前九時より小名濱町第三小學校講堂で秋季總會を開催、次の事項について協議し終つて、住吉大原、金成、島の各分會四チームの野球試合を行つた

總會協議事項

一、女子加入の件
一、会則改正の件
一、女子役員承認の件

天氣豫報

【明日】北東の風朝の内は晴、後曇りとなるでせう【海上】東の風にて波立つて來ませう

23日

【小名濱魚市場】

えび　六五〇—三四〇圓
のどぐろ　三〇〇圓
虫　三〇〇圓
たこ　七〇—六〇〇圓
またこ　二二〇圓
はも　三〇〇—二八〇圓
人氣好調
野菜は秋分に就き市場休場

随想
小名濱夜話 ⑦
…續二昔物語…

茨　玲之助

暁闇をついて、廣漠たる海濱に、点々と燃え上る七つの火、壯麗な焔の祭典、男子たるもの思わず血湧き肉おどるのである。四倉では古來「火ぶつちやえ」（火打ちあい）と稱して、火のついた薪を投げあつて、肉彈戰を敢行するそうだ。さて、今やこやは焼け落ちんとする、その時である。倒れんとするぼんでん竹の尖端にある御幣をとらんとして、人々はなだれのように殺到するのである。此の御幣はその年一年の幸福のシンボルである。その年の榮光はその獲得者に燦然と輝くのである。組んず、ほぐれつの大活躍、所詮自分に見込みはないと見きわめた者は、一歩退いて格闘の渦中に、砂のつぶての乱射乱撃である。やがて、その年最大の勇者は獲得した御幣を叮重にかつぎながら、羨望と嫉視の視線の中を、意氣揚々と凱旋將軍の如く、砂まみれになつて退場するのである。

五

カツドウ。シバヤ。もう何と懐しい名前ではないか。その頃小名浜には磐城座きりなかつた。今の切符受取場の向つて右手辺が札賣場だつた。「大人一枚こども一枚くんちやえ。」というと「へい。いらつしやい。」と威勢のいい印半天に向う鉢巻の小父さんが、手垢で古びて艶のでている木の札を渡してくれたものである。中は勿論板の間にござがひいてあつて、中央十文字に渡り踏板になつているしきりがあつて、便所の出入りなどこれを利用したのである。下足札を貰つて履物をあずけ、思い思いの場所に陣どる。その頃は勿論常設館ではなかつたし、映画会社とのつながりも今のようなシステムではなかつたらしい。映画も演劇も總て地方巡業の一座であつた。びらなども余り使われず周知の方法は町廻りである。演劇その他のアトラクションであると大概初日の日は顔見せと稱して、役者（俳優などとはいわなかつた。）全員が扮装して町廻り、二日目から人力車に大鼓を積んだ人が一人で町廻りをする。シバヤのふれ太鼓はその叩き方で判る。「ドンドコドンドコドドンカドンドコ。」と音が聞えだすと、家庭で遊んでいたこども達も、縫物をしていた娘達も、すわとばかり表へ走りでる。車の止るところはきまつている。人の屯している前に車が止まると太鼓打つ手をとめて、やおら浪花節のせりふのように、良く枯れた聲で今夜のだしものの紹介をはじめるのである。「相つとめまするげいだい（外題）は、本朝二十四孝は、……」からはじまつて「にぎにぎしく御來場の程を、ひとえに懇願奉ります。」と結んで顔を下げる。上げた拍子にでんと太鼓を打ち、打つた拍子に走り出すという、あの氣合はまことに美事なものだつた。それにしても、聞いただけで胸をそそられるあの美聲と抑揚は、商賣柄とはいえ、実に感歎すべきものであつた。カツドウの方はいわゆるジンタである。（續く）

晝間部　夜間部　生徒募集
長瀬洋裁研究所　小名濱町本町

二十三日—二十五日　三日間
小人三十圓　大人五十圓
磐城座
豪華二本立特別サービス興行
大映作品　三條美紀、水島道太郎主演
社會惡を呪い、自ら轉落の道をえらぶ女の魂を救わんとして職を賭する若き警察官のヒューマニズムを描いた
〃轉落の詩集〃
全女性を号泣せしめた石川達三の問題の小説映畫化
流行作家石川達三が、初期の作品として世に問い、問題となつた〃轉落の詩集〃——検閲制度の厳しき時代に、その筋の制約を受けて、完全描寫を許されなかつた曰く付きの〃轉落の詩集〃——時代は一轉して、曾つて石川達三が追究したテーマを赤裸々に銀幕に映し出すことを許された〃轉落の詩集〃
——〃一匹狼〃以來お目出たの爲にお目にかゝれなかつた。三條美紀が水島道太郎とのコンビで久方振りに銀幕にお目見得する〃轉落の詩集〃——貴女の胸に切なく、そして強烈な情熱の火を灯さずには置かぬ〃轉落の詩集〃
大映が秘密裡に企画し、ようやく完成した〃轉落の詩集〃御期待下さい。

大映東京作品
監督　小石榮一
主演　三益愛子・三條美紀
〃流れる星は生きている〃
三益愛子の母性篇、とめどなく涙にうるむ世にも強き母の道、星も泣く運命の難路を突破して來た偉大な母——大映又も放つ感動大作母物語！

釜屋
平五丁目　電9, 99, 999

大洋電機株式會社
代理店
小濱電機工業所
小浜敬太郎
電話一五九番